



内 灘 町  
人口ビジョン  
(案)

平成 27 年 10 月

内 灘 町

# 目 次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| はじめに.....                            | 1  |
| <b>§ 1. 内灘町の人口動向</b>                 |    |
| 1. 人口ピラミッド.....                      | 2  |
| 2. 人口・世帯数・世帯人員の推移.....               | 3  |
| 3. 年齢3区分別人口の推移.....                  | 4  |
| 4. 年齢3区分別人口割合の推移.....                | 5  |
| 5. 年齢3区分別人口割合の比較.....                | 6  |
| 6. 自然動態の推移.....                      | 7  |
| 7. 合計特殊出生率の推移.....                   | 7  |
| 8. 社会動態の推移.....                      | 8  |
| 9. 男女別・年齢階級別社会動態の推移.....             | 9  |
| 10. 年齢階級別転入・転出の状況（2005年→2010年）.....  | 10 |
| 11. 転入・転出先（2005年→2010年）.....         | 11 |
| 12. 12) 男女別転入・転出先（2005年→2010年）.....  | 11 |
| 13. 産業別人口.....                       | 12 |
| 14. 現況の総括.....                       | 15 |
| <b>§ 2. 内灘町の将来人口の推計</b>              |    |
| 1. 内灘町の人口推計（国立社会保障・人口問題研究所推計準拠）..... | 16 |
| 2. 人口減少段階の分析.....                    | 17 |
| 3. 全国と内灘町との比較.....                   | 18 |
| 4. 人口減少や高齢化の進展が内灘町に与える影響.....        | 19 |
| <b>§ 3. 内灘町の人口の将来展望</b>              |    |
| 1. 町民意向調査.....                       | 20 |
| 2. 目指すべき人口減少対策の方向性（基本方針）.....        | 22 |
| 3. 将来目標人口の設定.....                    | 23 |

# はじめに

## 1. 内灘町人口ビジョン策定の背景と目的

我が国では、2008 年から人口減少時代に突入し、地方により状況は異なるものの、多くの都市では今後、人口減少による地域経済規模の縮小や生活水準の低下等が懸念されている。東京・大阪・愛知などの大都市圏では、地方からの人口流入により、今後も一定期間は人口の増加が継続すると予測されているが、地方都市では人口を維持していくことも困難な状況にある。

そこで、国では「東京一極集中」の是正「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」「地域の特性に則した地域課題の解決」の視点から「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（平成 26 年 12 月）」を策定し、2060 年に 1 億人程度の人口を確保する中長期展望を提示している。

内灘町人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、内灘町の人口の現状分析と将来推計により、行政・町民が内灘町の人口に関する現状を共通で認識し、今後の内灘町の目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を示すことを目的に策定する。

## 2. 内灘町人口ビジョンの対象期間

内灘町人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間と整合を図り、2060 年（平成 72 年）とする。

## 3. 将来目標人口の設定

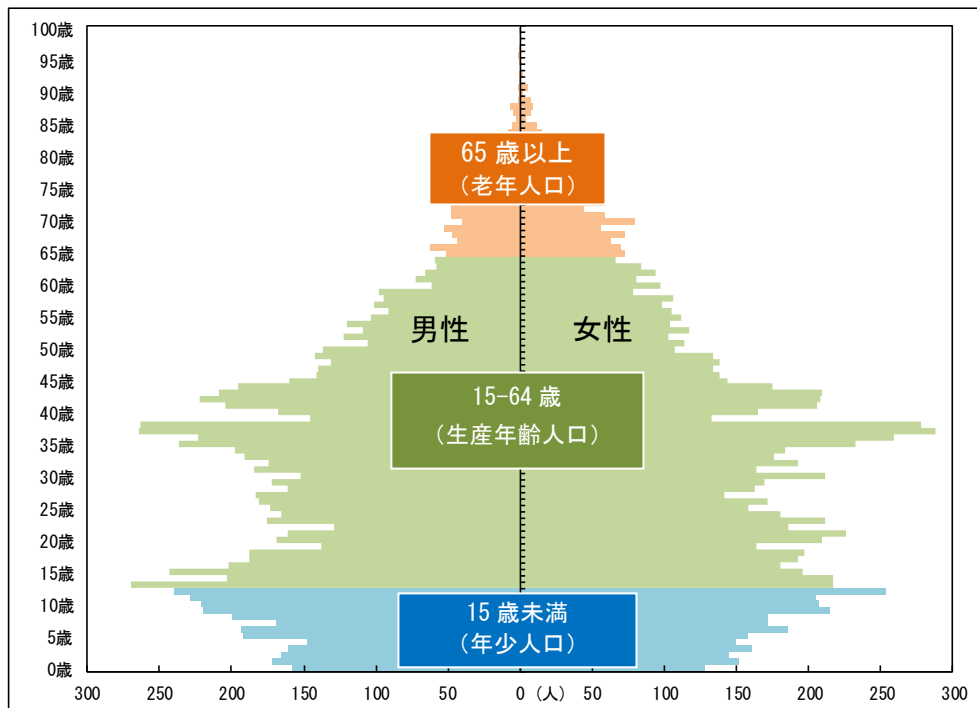
内灘町人口ビジョンでは、これまでの内灘町の人口動向（自然増減・社会増減）や国・県・町の各種施策を勘案した将来目標人口を掲げ、「内灘町総合戦略」における施策を推進していくための指標の一つとして設定する。

## § 1. 内灘町の人口動向

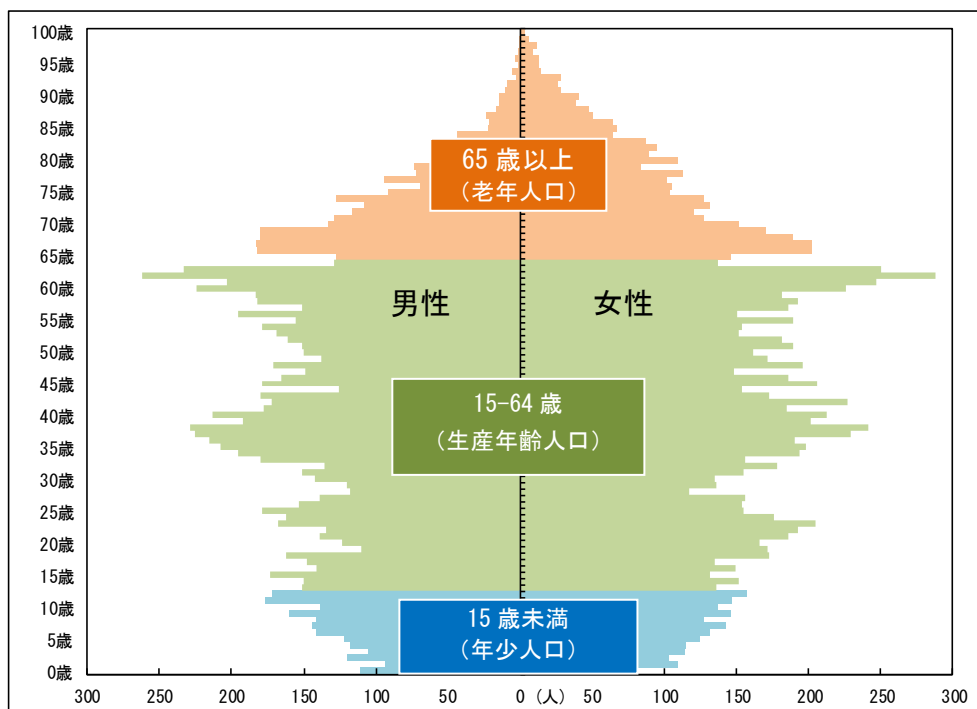
### 1. 人口ピラミッド

- ・ 65 歳以上（老年）の人口が増加しており、今後さらに老年人口の増加が予想される。

【1985 年の人口ピラミッド】



【2010 年の人口ピラミッド】

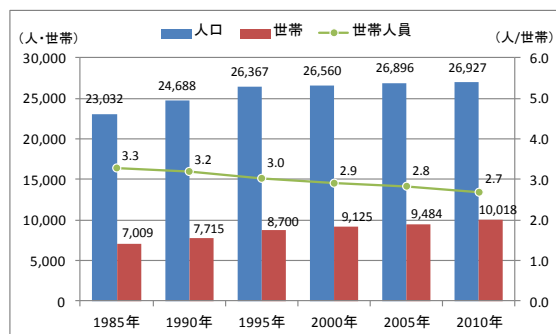


出典：国勢調査

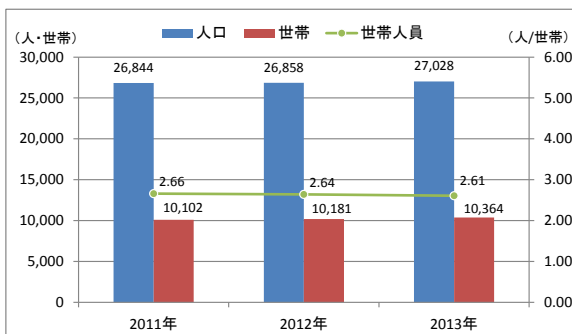
## 2. 人口・世帯数・世帯人員の推移

- 人口、世帯数は 1995 年頃まで住宅地開発等により増加し、近年では横ばい傾向にあるが、世帯人員は減少傾向にある。

### 【人口・世帯数・世帯人員の推移】



出典：国勢調査



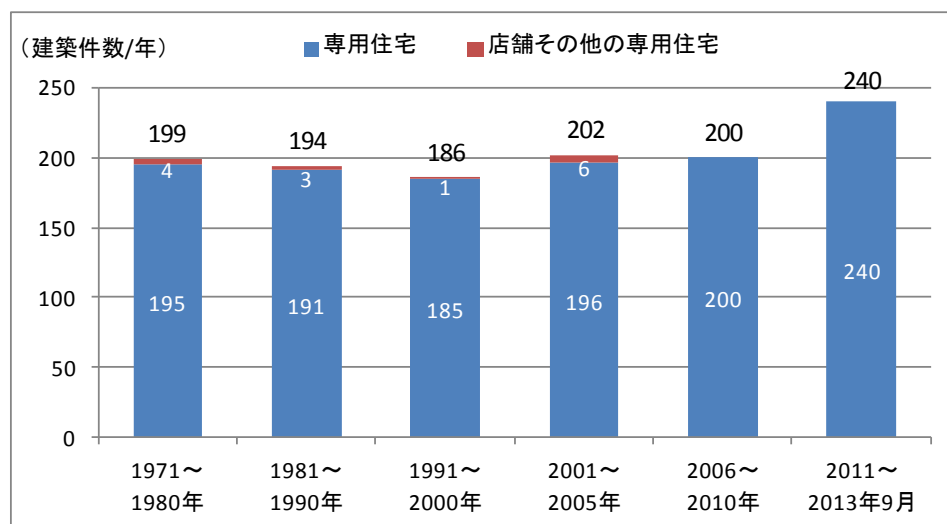
出典：住民基本台帳

※国勢調査結果（2010 年）以降の人口・世帯・世帯人員の推移を把握するため、2011 年以降は住民基本台帳の結果を示している。

### （参考）建築の時期別住宅件数の推移

- 1971 年以降、住宅の建築件数は年間 200 件前後で推移している。

### 【建築の時期別住宅件数の推移】

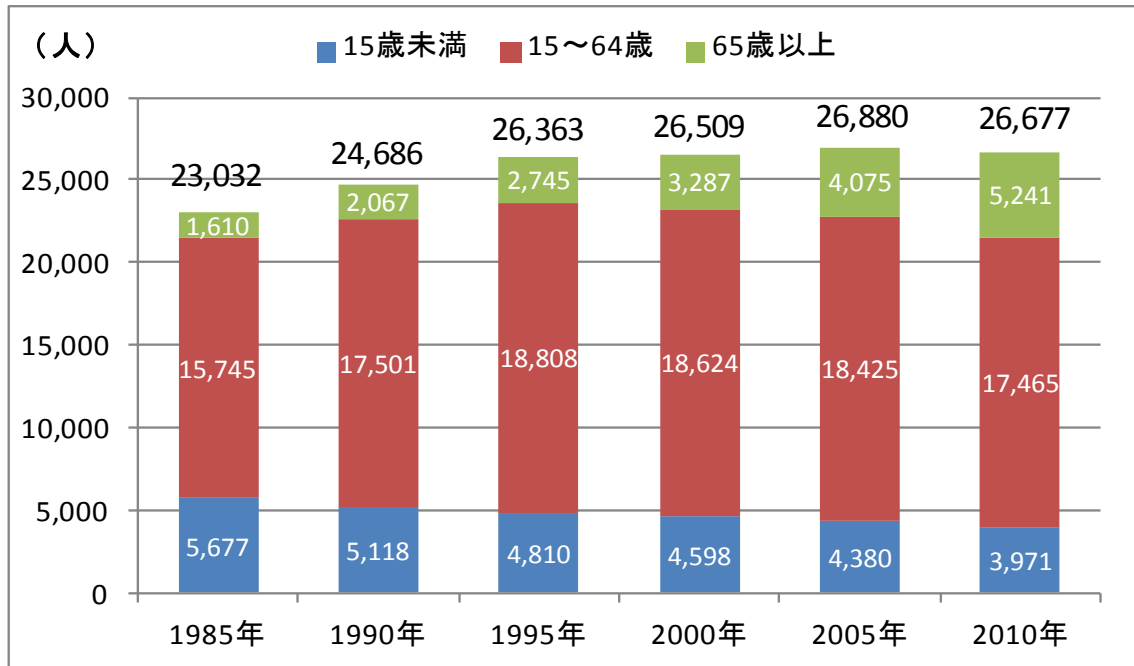


出典：住宅・土地統計調査

### 3. 年齢3区分別人口の推移

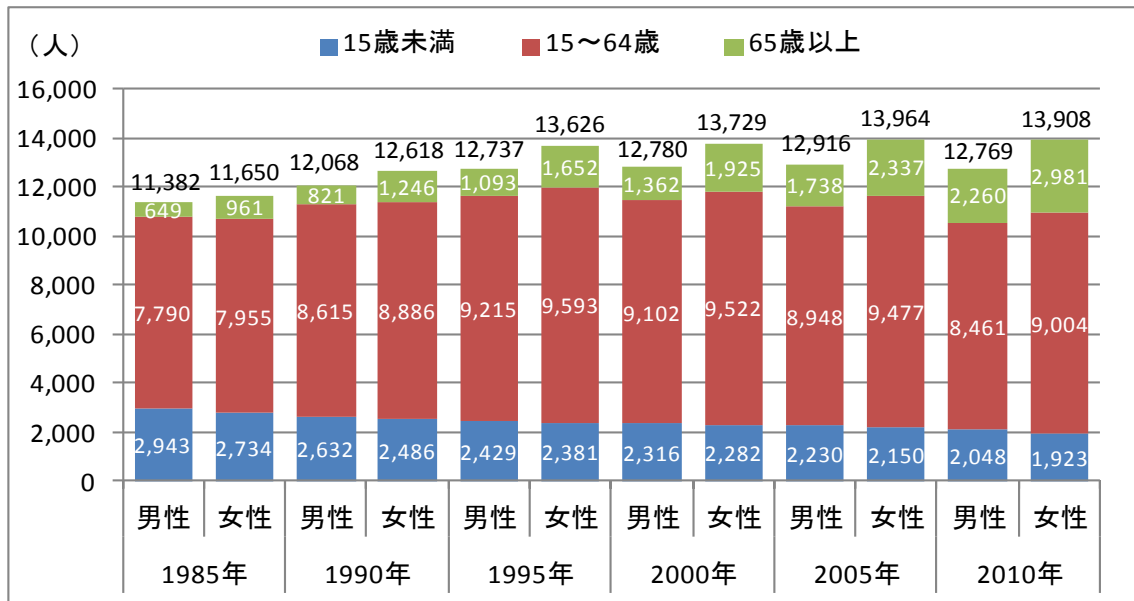
- ・ 65 歳以上の人口は増加を続けているが、15 歳未満、15～64 歳の人口は減少傾向にあり、男女による大きな差は見られない。

【年齢3区分別人口の推移】



※年齢不詳は除く 出典：国勢調査

【男女別年齢3区分別人口の推移】

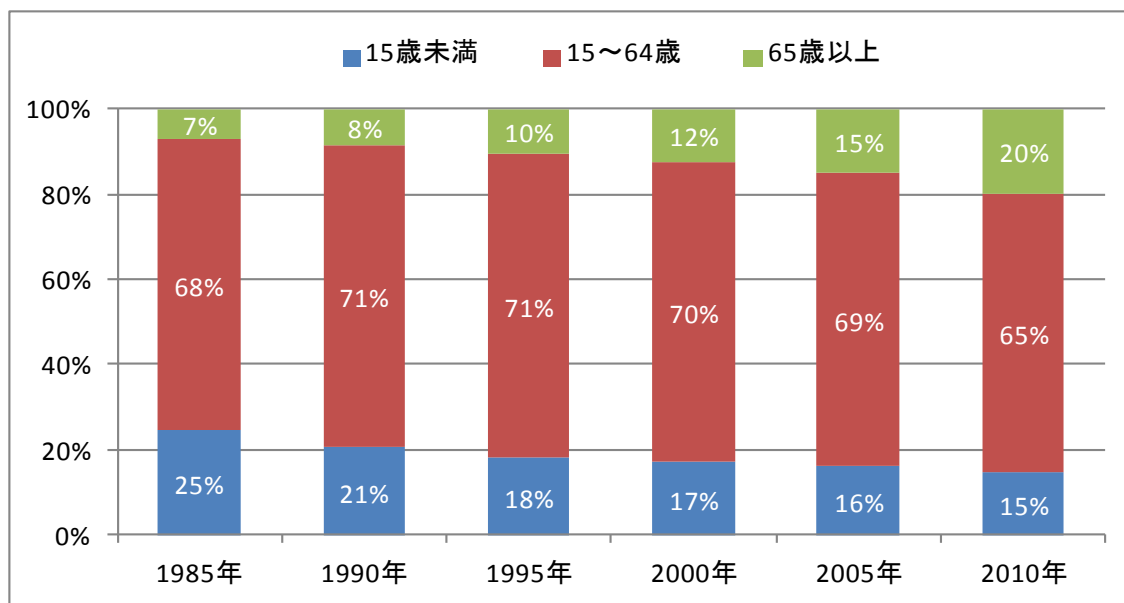


※年齢不詳は除く 出典：国勢調査

#### 4. 年齢3区分別人口割合の推移

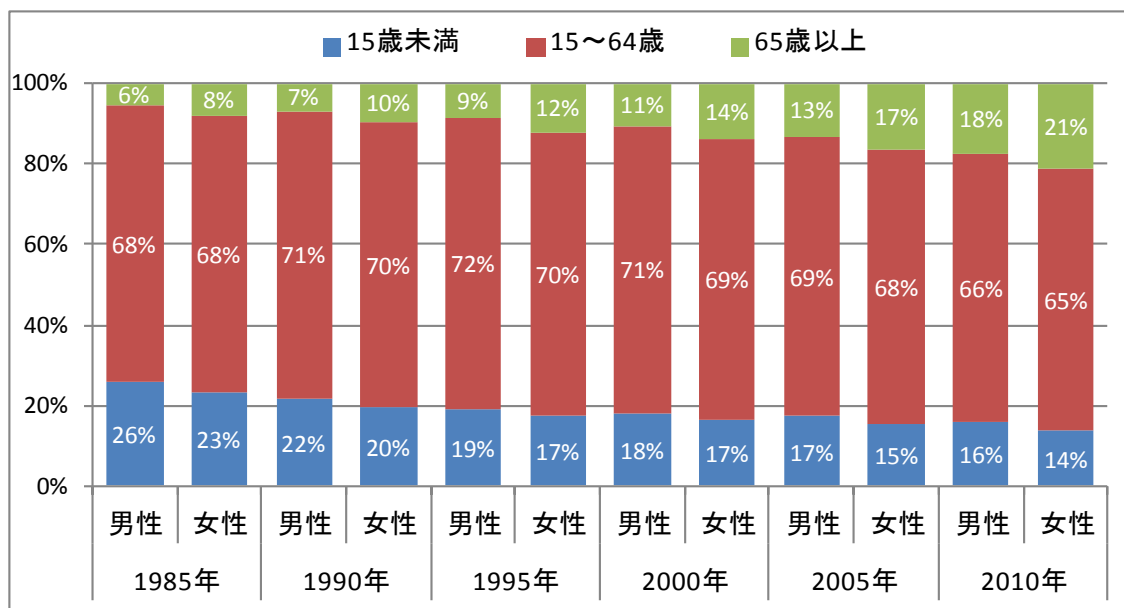
- ・1985年以降、65歳以上の割合が増加傾向にあり、15歳未満、15～64歳の割合は減少傾向にある。男女別では女性の方が男性と比べて65歳以上の割合が高い。

【年齢3区分別人口割合の推移】



※年齢不詳は除く 出典：国勢調査

【男女別年齢3区分別人口割合の推移】

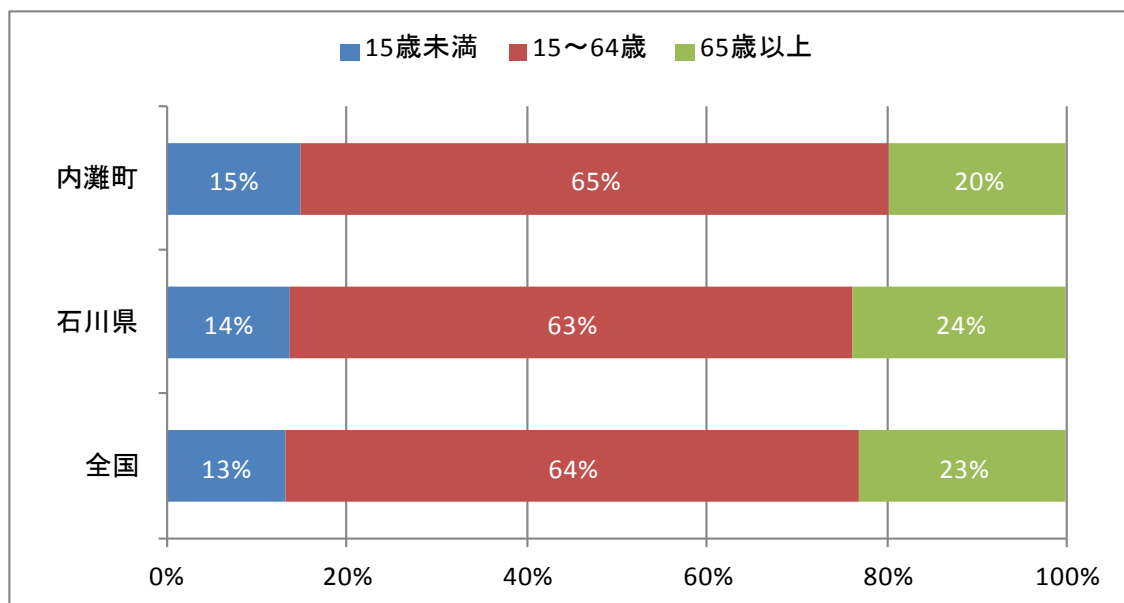


※年齢不詳は除く 出典：国勢調査

## 5. 年齢3区分別人口割合の比較

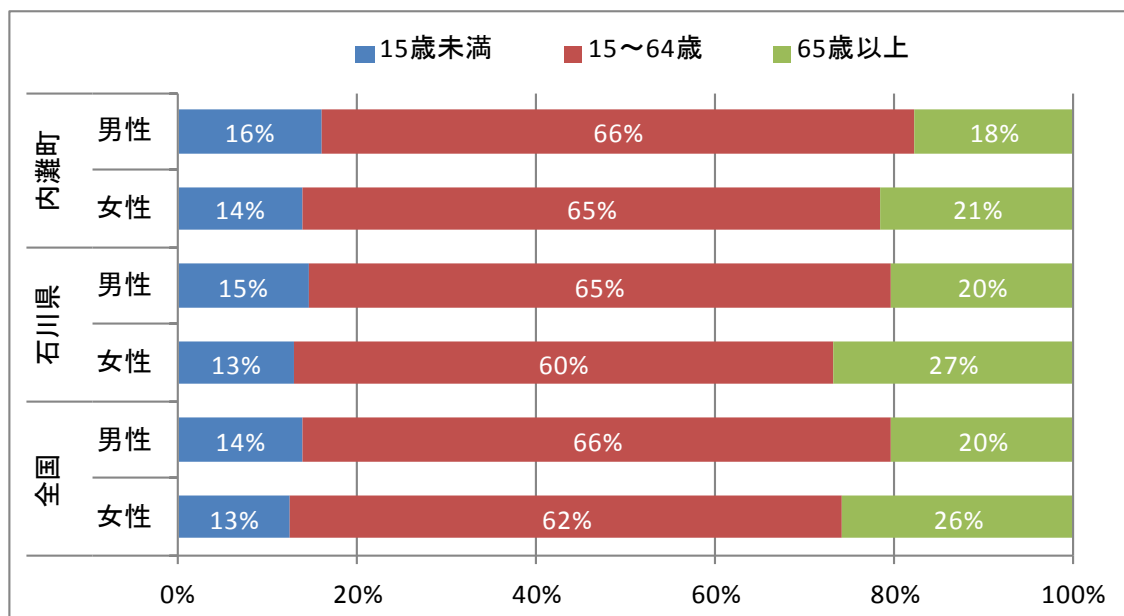
- ・石川県、全国と比べ65歳以上の割合は低く、男性では石川県や全国と大きな差は見られないものの女性は5%以上の差が見られる。

【年齢3区分別人口割合の比較】



※年齢不詳は除く 出典：国勢調査

【男女別年齢3区分別人口割合の比較】

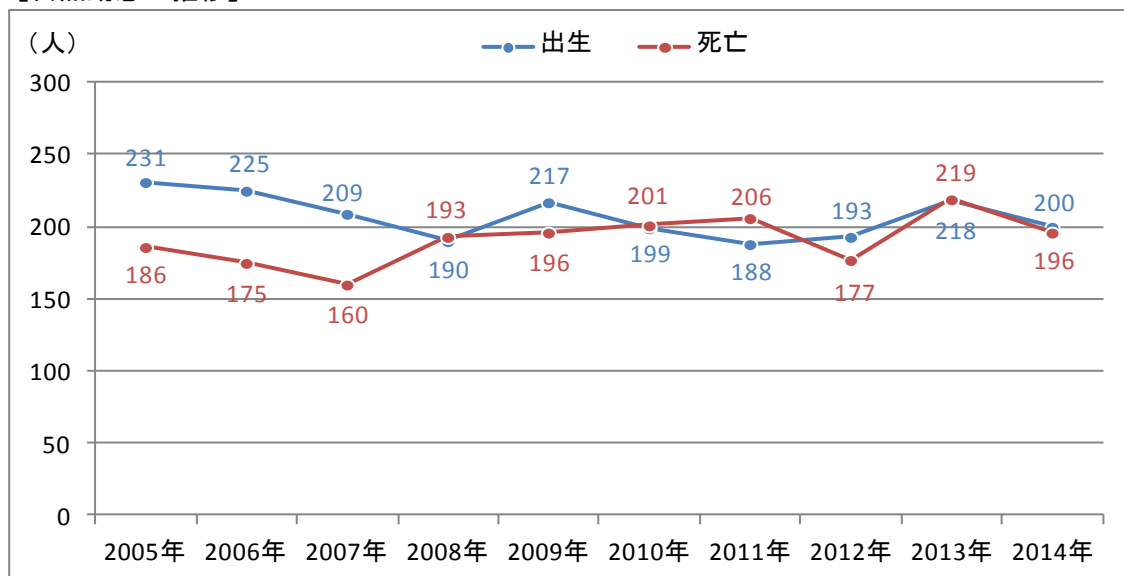


※年齢不詳は除く 出典：国勢調査

## 6. 自然動態の推移

- ・自然動態では、2007年までは出生者数が死亡者数を上回り、2008年以降は出生者数と死亡者数がほぼ同数で推移している。

### 【自然動態の推移】

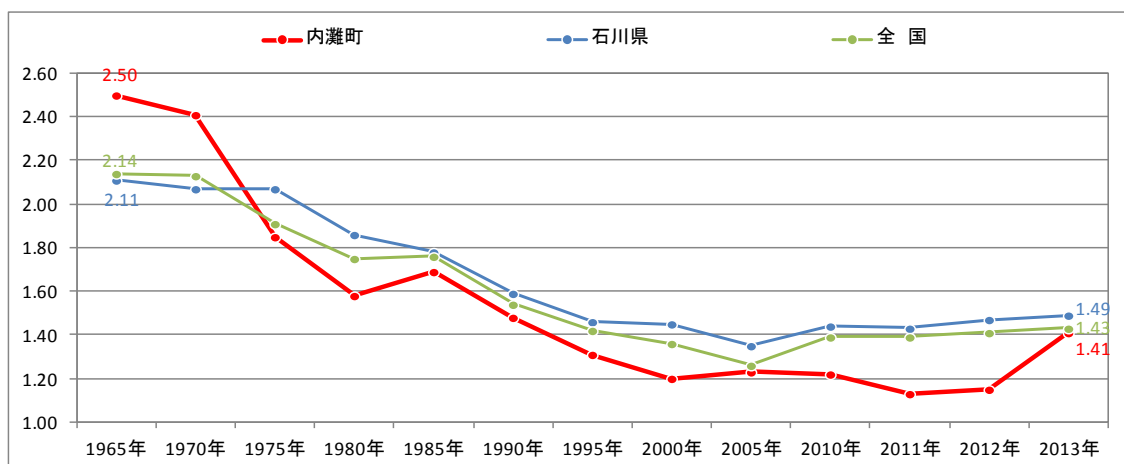


出典：住民基本台帳

## 7. 合計特殊出生率の推移

- ・2013年の内灘町の合計特殊出生率は、全国や石川県と比べて大きな差は生じていない。

### 【合計特殊出生率の推移】



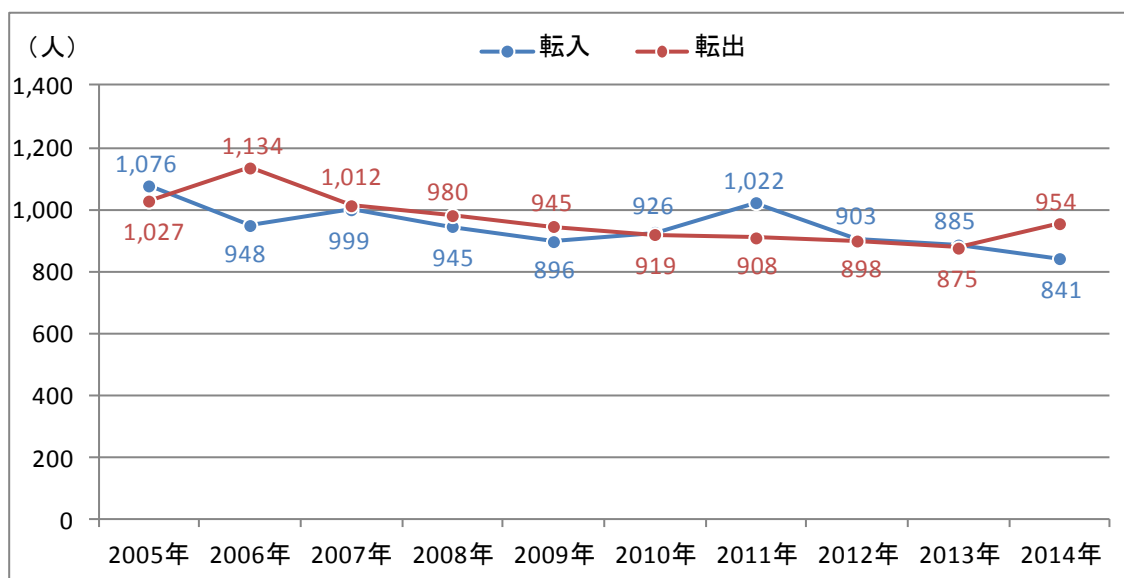
|     | 1965年 | 1970年 | 1975年 | 1980年 | 1985年 | 1990年 | 1995年 | 2000年 | 2005年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 内灘町 | 2.50  | 2.41  | 1.85  | 1.58  | 1.69  | 1.48  | 1.31  | 1.20  | 1.23  | 1.22  | 1.13  | 1.15  | 1.41  |
| 石川県 | 2.11  | 2.07  | 2.07  | 1.86  | 1.78  | 1.59  | 1.46  | 1.45  | 1.35  | 1.44  | 1.43  | 1.47  | 1.49  |
| 全国  | 2.14  | 2.13  | 1.91  | 1.75  | 1.76  | 1.54  | 1.42  | 1.36  | 1.26  | 1.39  | 1.39  | 1.41  | 1.43  |

出典：衛生統計年報・人口動態統計特殊報告書・庁内資料

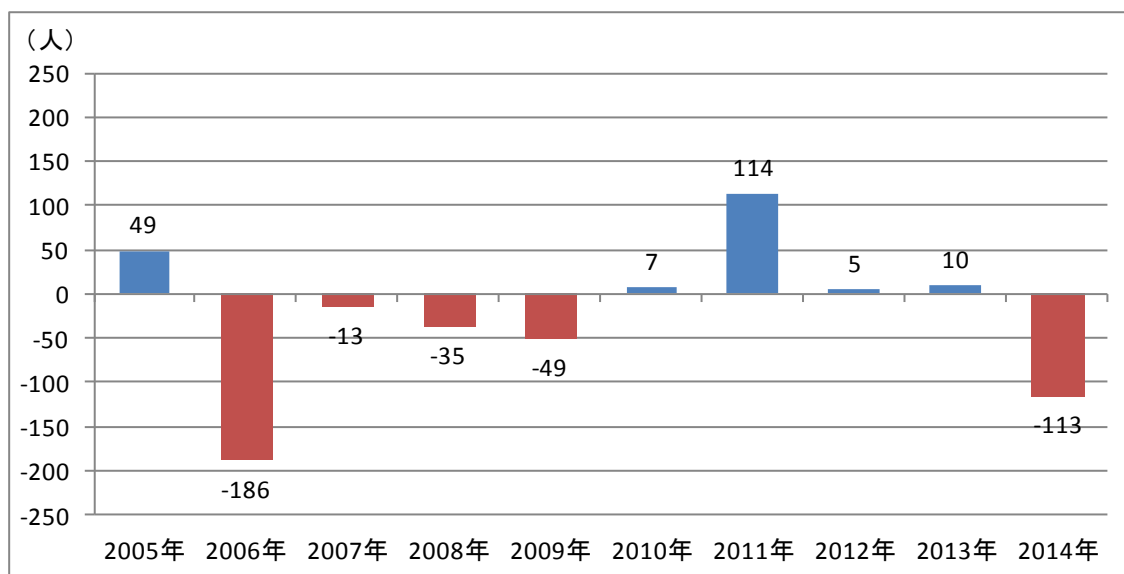
## 8. 社会動態の推移

- ・社会動態の推移では、一部の年では差が生じているものの、転入者数と転出者数は、ほぼ同数で推移している。

【社会動態の推移】



【転入出状況（転入－転出）】



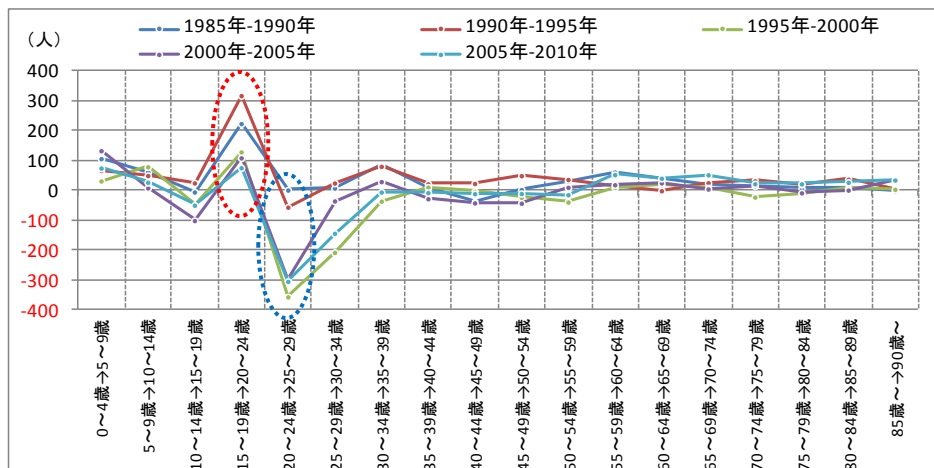
※調査は前年10/1～9/30までの集計

出典：石川県の人口動態（～2006年）、石川県の人口と世帯（2007年～）

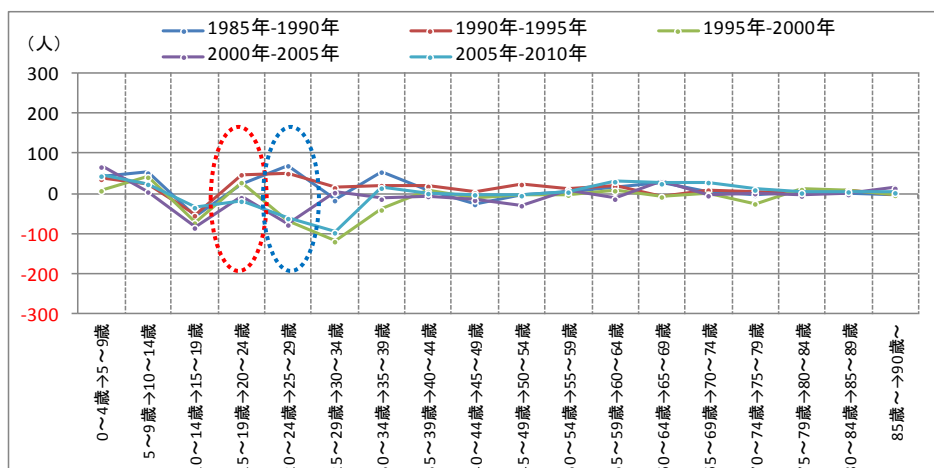
## 9. 男女別・年齢階級別社会動態の推移

- ・内灘町全体では「15～19歳」が「20～24歳」になるまでの転入と「20～24歳」が「25～29歳」になるまでの転出が多くなっており、男性に比べ女性の傾向が顕著に現れている。

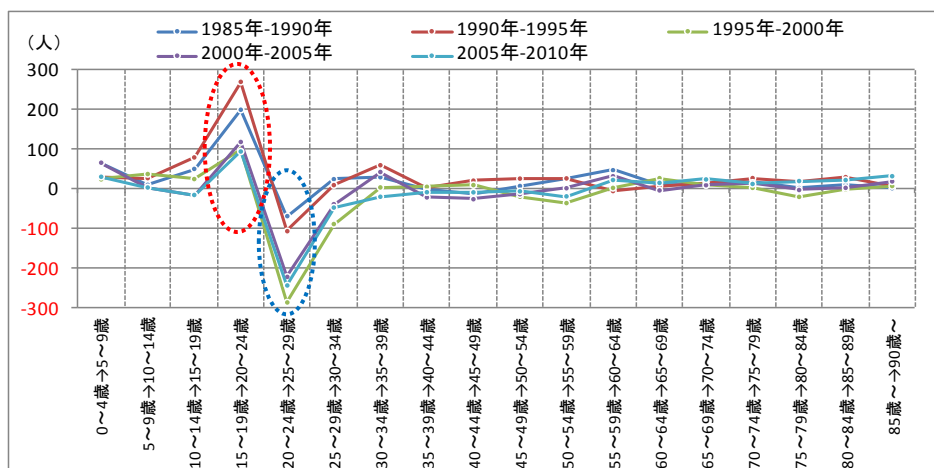
【内灘町全体の社会動態の推移】



【男性の社会動態の推移】



【女性の社会動態の推移】

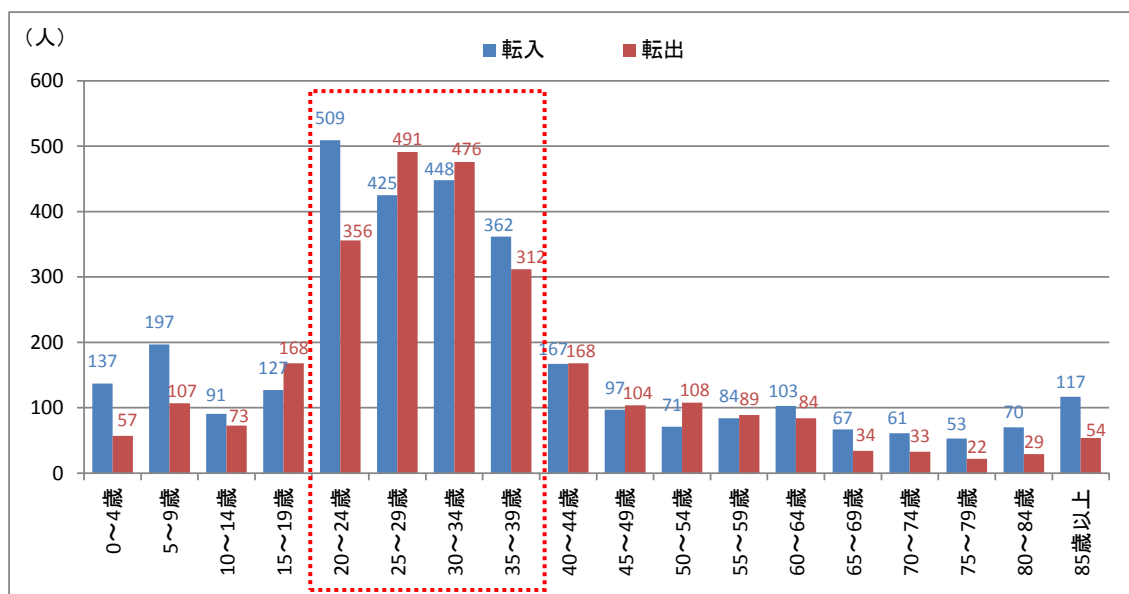


出典：国提供資料

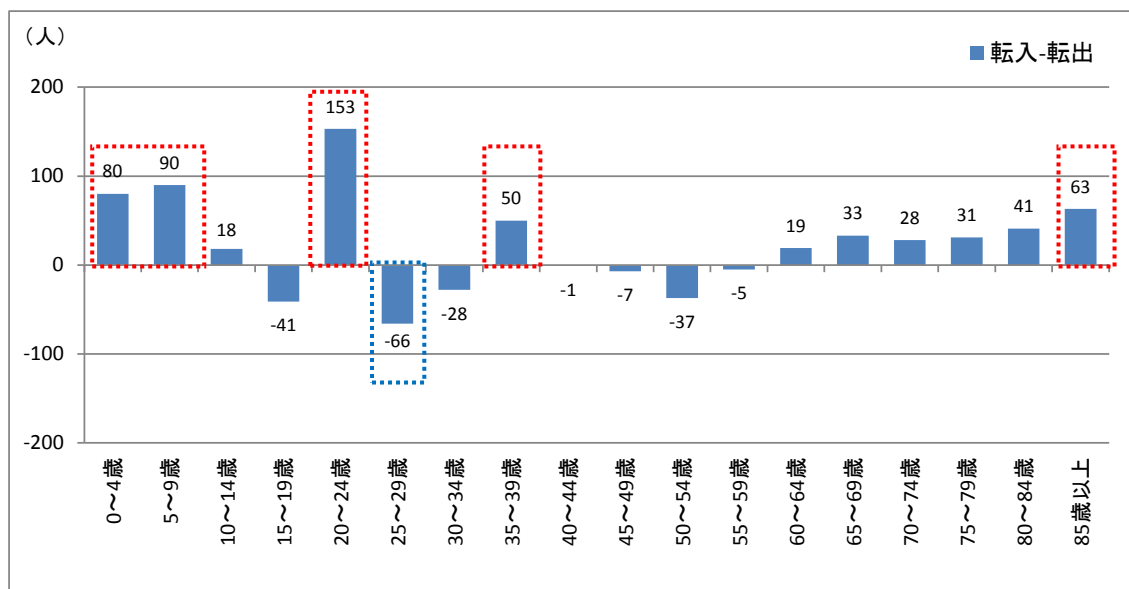
## 10. 年齢階級別転入・転出の状況（2005年→2010年）

- ・「20～39歳」の転入・転出者数が多くなっている。
- ・転入者数と転出者数の差から転入では、「20～24歳」が顕著であるほか、「0～9歳」「35～39歳」「85歳以上」も多い。
- ・一方、転出では「25～29歳」が多くなっている。

【年齢階級別転入・転出の状況】



【年齢階級別転入出状況（転入－転出）】

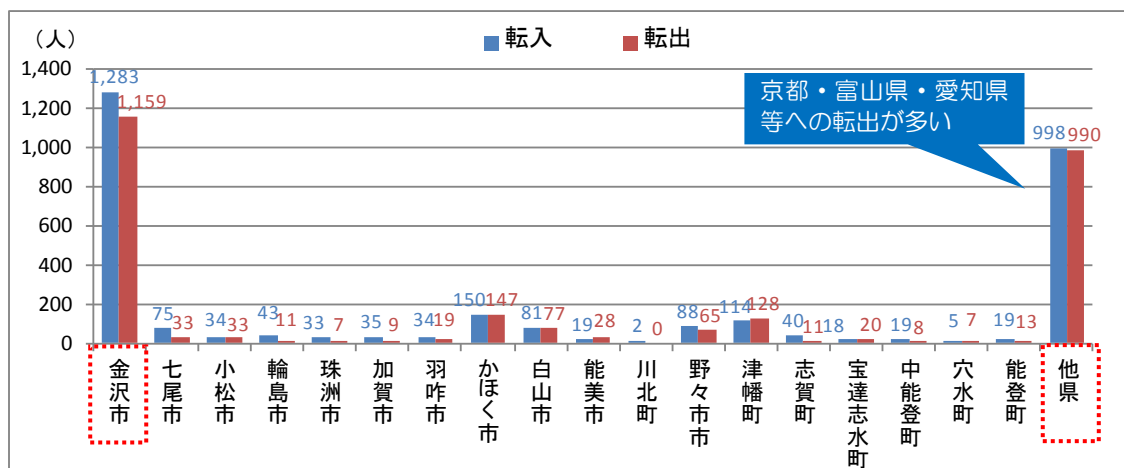


出典：国勢調査

## 1.1. 転入・転出先（2005年→2010年）

- ・金沢市及び他県への転出が多くなっている。

### 【市町村別転入・転出の状況】

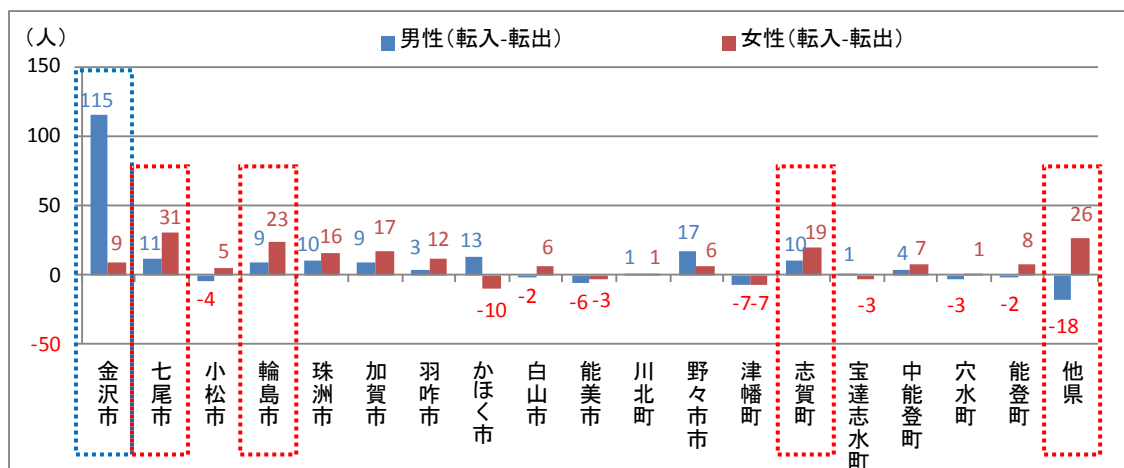


出典：国勢調査

## 1.2. 12) 男女別転入・転出先（2005年→2010年）

- ・男性は金沢市からの転入が多く、女性は能登地域（七尾市・輪島市・志賀町等）や他県からの転入が多い。

### 【男女別転入出状況（転入－転出）】

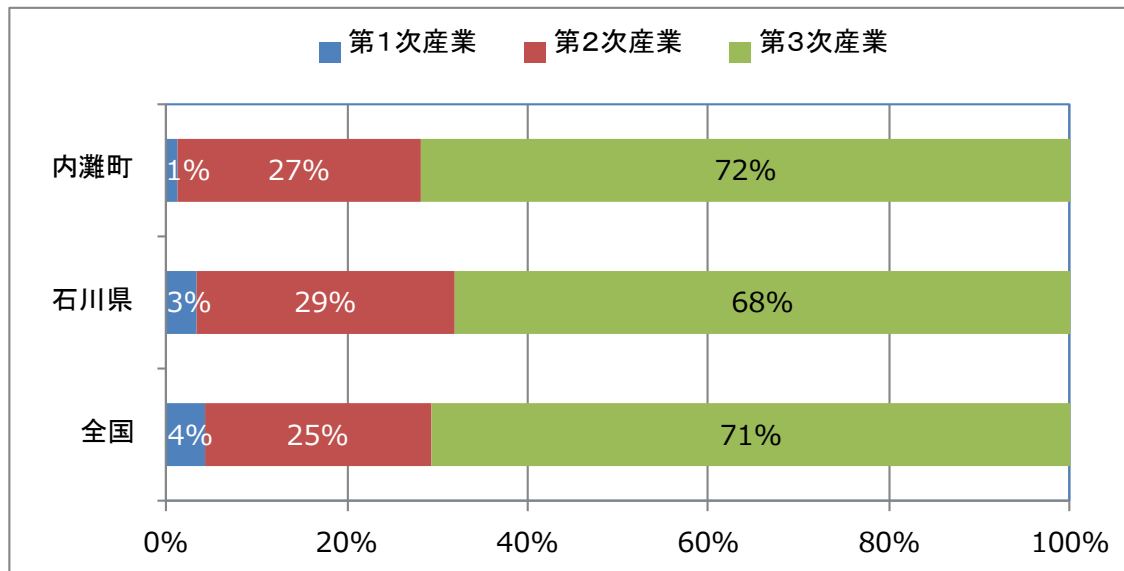


出典：国勢調査

### 1 3. 産業別人口

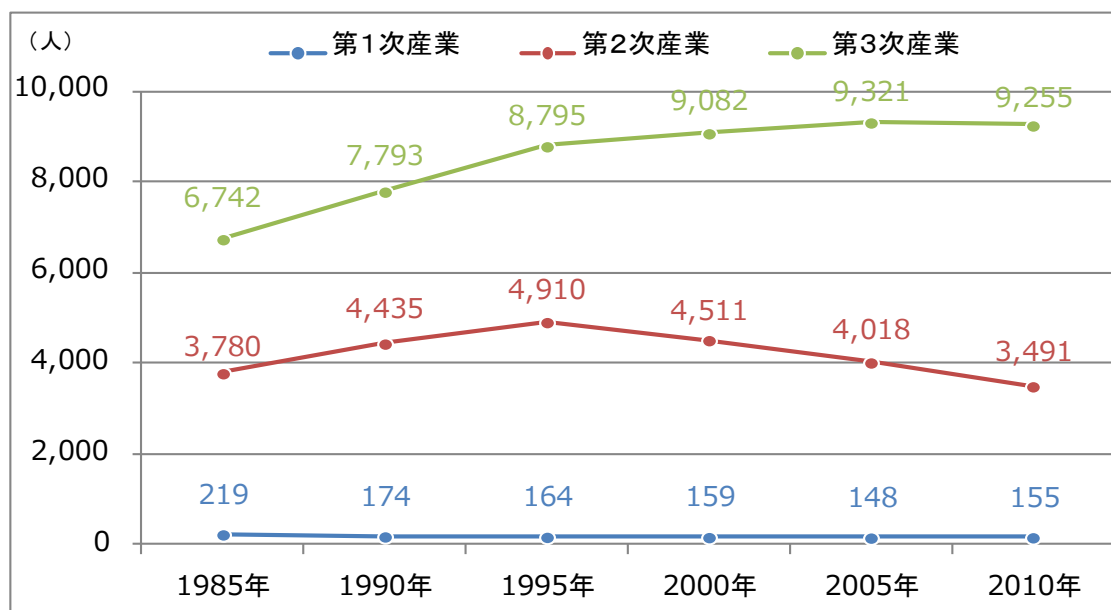
- ・内灘町では第3次産業の就業者人口の割合が高く、近年では横ばい傾向にある。
- ・産業別では町内の「建設業」「卸売業、小売業」「医療、福祉」の就業者割合が県全体の就業者割合と比べ、高くなっている。

【2010 年における産業（3 部門）別人口割合の比較】



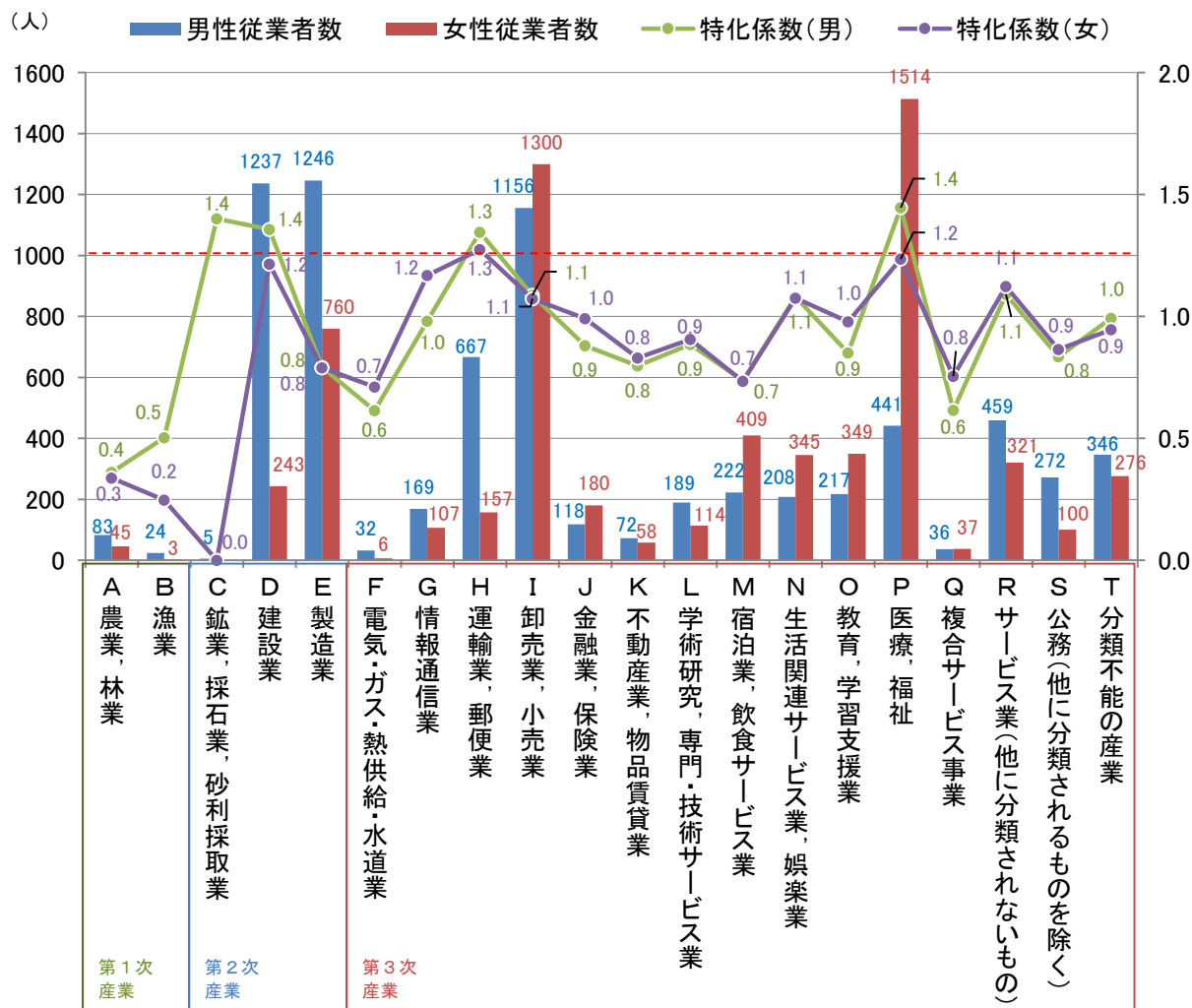
出典：国勢調査

【内灘町における産業（3 部門）別人口の推移】



出典：国勢調査

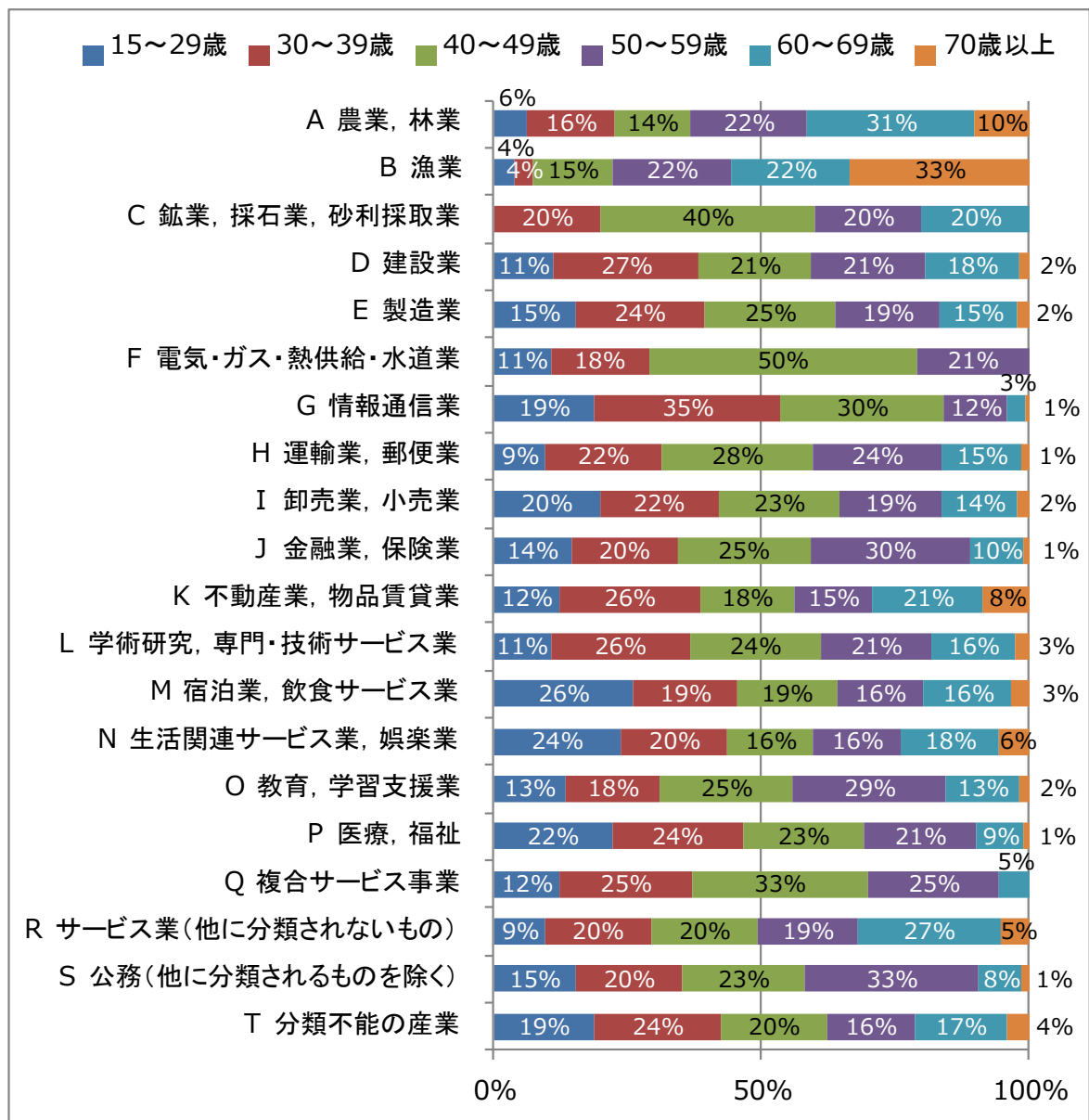
【内灘町における産業（大分類）別人口および特化係数（2010年）】



※特化係数（県比較）：町のX産業の就業者比率／石川県のX産業の就業者比率

出典：国勢調査

【内灘町における産業（大分類）別年齢構成（2010年）】



出典：国勢調査

## 1 4. 現況の総括

### 【人口の推移】

- 全国的に人口減少がみられる中、近年の本町の人口は横ばい傾向にある。
- 本町民の年齢構成は、石川県や全国と比べ年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15～64 歳）の割合がやや高くなっている。

### 【自然動態の推移】

- 2008 年以降は、出生者数と死亡者数がほぼ同数で推移している。

### 【合計特殊出生率の推移】

- 本町の合計特殊出生率は、1975 年以降、石川県や全国と比べ低い値で推移している。

### 【社会動態の推移】

- 転入・転出者数は、2009 年まで転出超過で推移してきたが、2010 年以降は、ほぼ同数で推移しており、社会増減の影響が少ない状況が続いている。
- 転入は「20～24 歳」の女性、転出は「25～29 歳」の女性が特に顕著に見られる。
- 男性は金沢市からの転入、女性は能登地域からの転入が多く見られる。

### 【産業の推移】

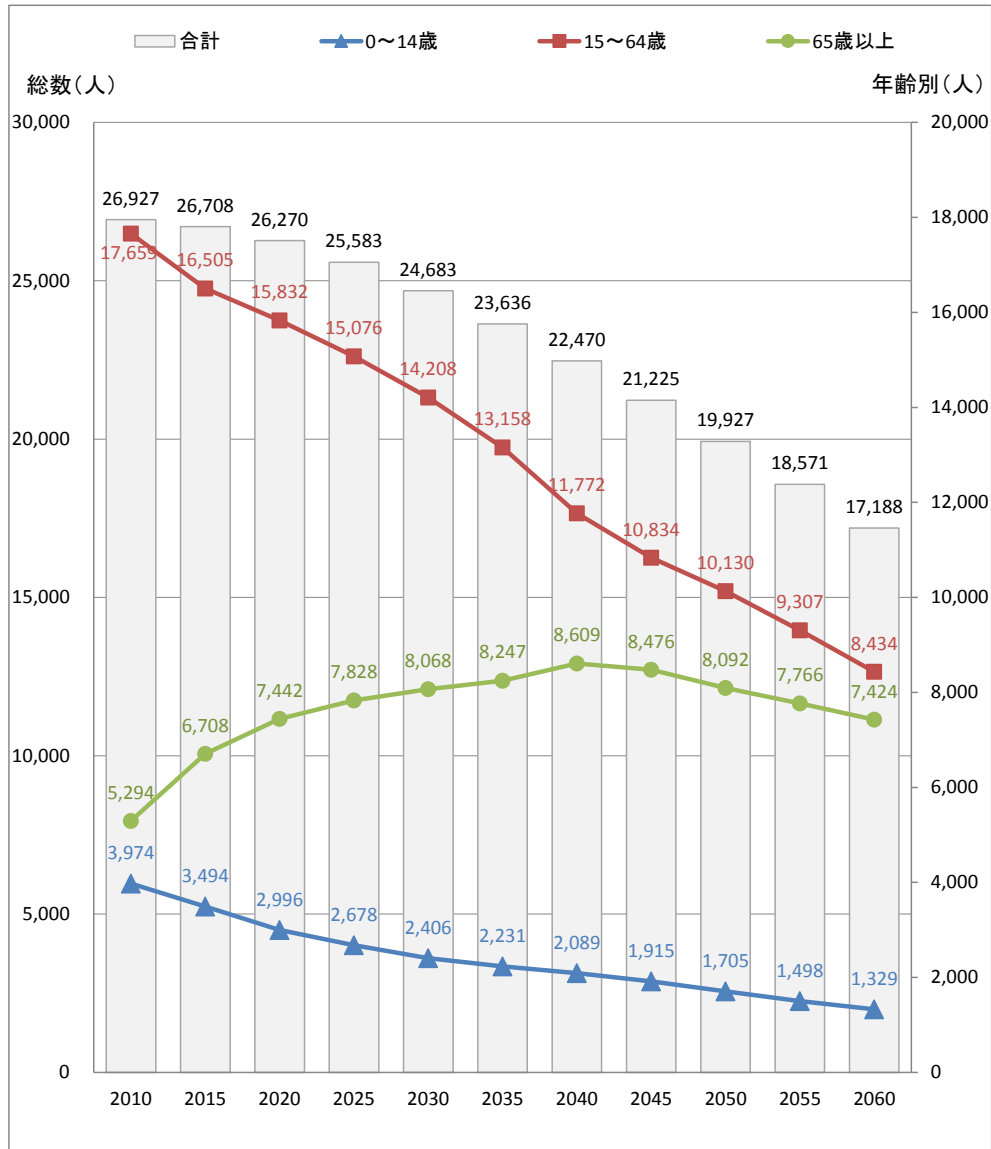
- 内灘町では第 3 次産業の就業者人口割合が高く、近年では横ばい傾向にある。
- 内灘町の産業は、「建設業」「卸売業・小売業」「医療・福祉」の従業員数が多くなっている。

## § 2. 内灘町の将来人口の推計

### 1. 内灘町の人口推計（国立社会保障・人口問題研究所推計準拠）

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）推計準拠によると、2060年には本町の人口は約1.7万人になると予想され、9,739人（約36%）減少すると推計される。

#### 【内灘町の人口の長期的見通し】



#### 【社人研推計（2005年・2010年国勢調査人口をベースにコーホート要因法により推計）】

##### 〈出生に関する仮定〉

原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が2015年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定

##### 〈死亡に関する仮定〉

原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、上述に加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。

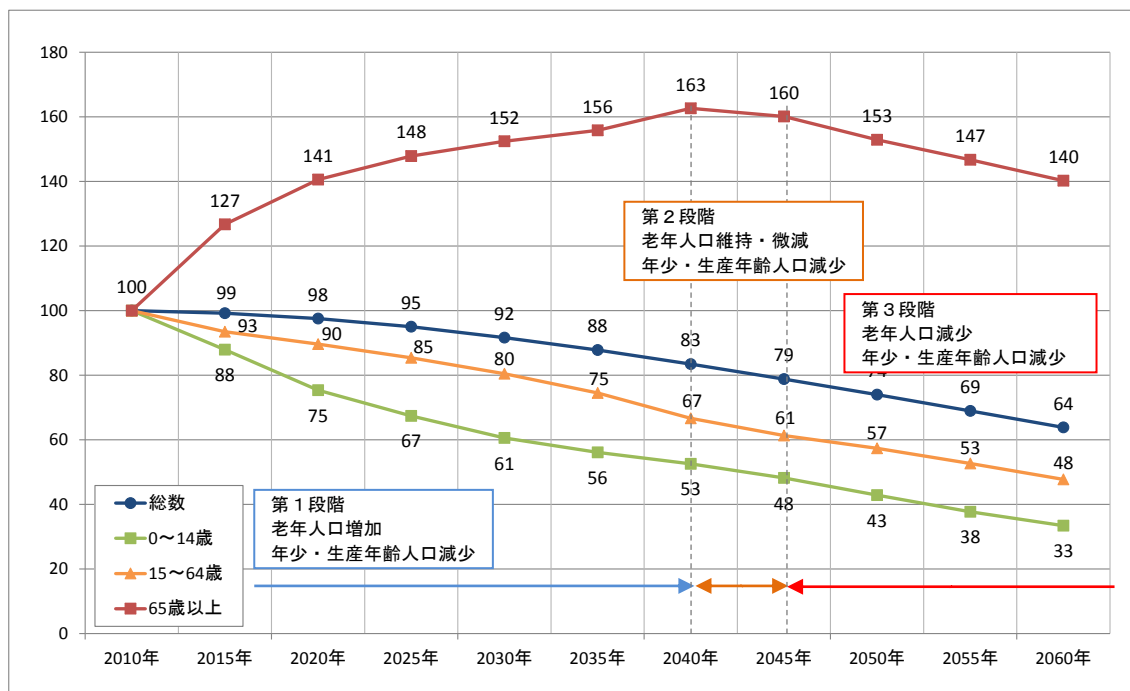
##### 〈移動に関する仮定〉

原則として、2005～2010年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を2035～2040年まで一定と仮定。

## 2. 人口減少段階の分析

- ・2040年まで年少・生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する「第1段階」が続き、その後、2045年まで老年人口の横ばいが続く「第2段階」に移行することが予想され、2045年以降には、本格的な老年人口が減少する「第3段階」となることが想定される。

【内灘町の人口の減少段階】

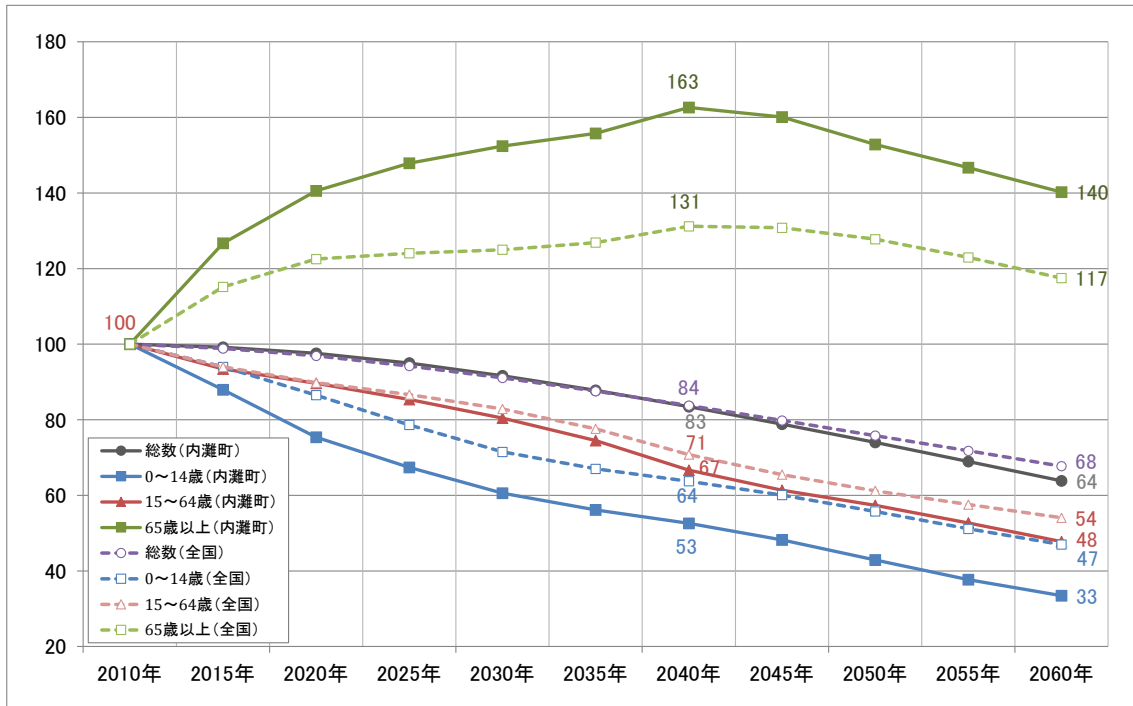


※内閣府資料（「選択する未来」委員会提出資料 人口減少問題と地方の課題）より

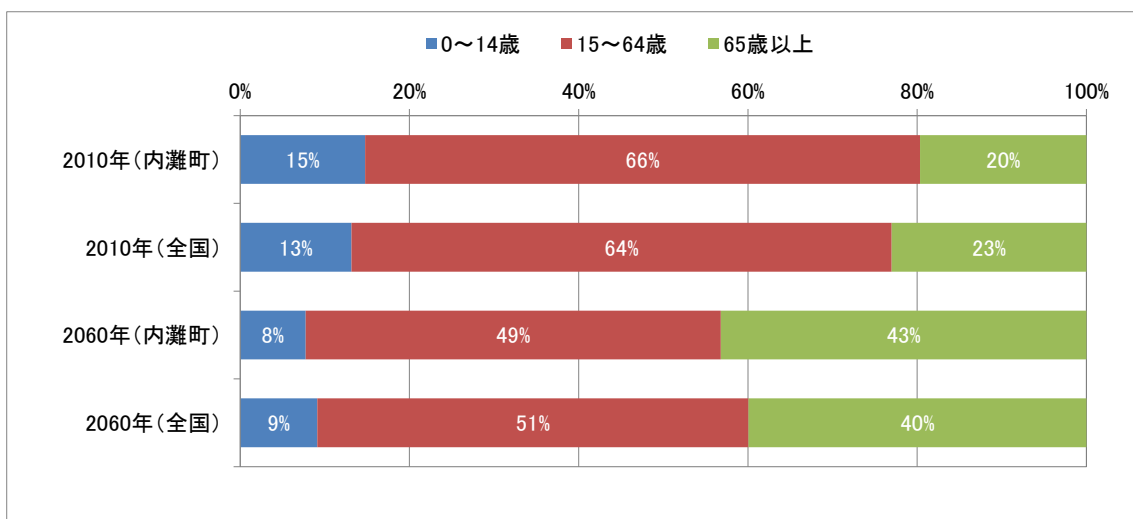
### 3. 全国と内灘町との比較

- ・2010 年を 100 とした場合の年齢 3 区分の推移や、2060 年の人口割合などを全国と比較した場合、本町の総数、及び年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）の減少し、一方で、老年人口（65 歳以上）の増加すると予想され、高齢化の進展が想定される。

【各年齢区分別人口の全国比較】



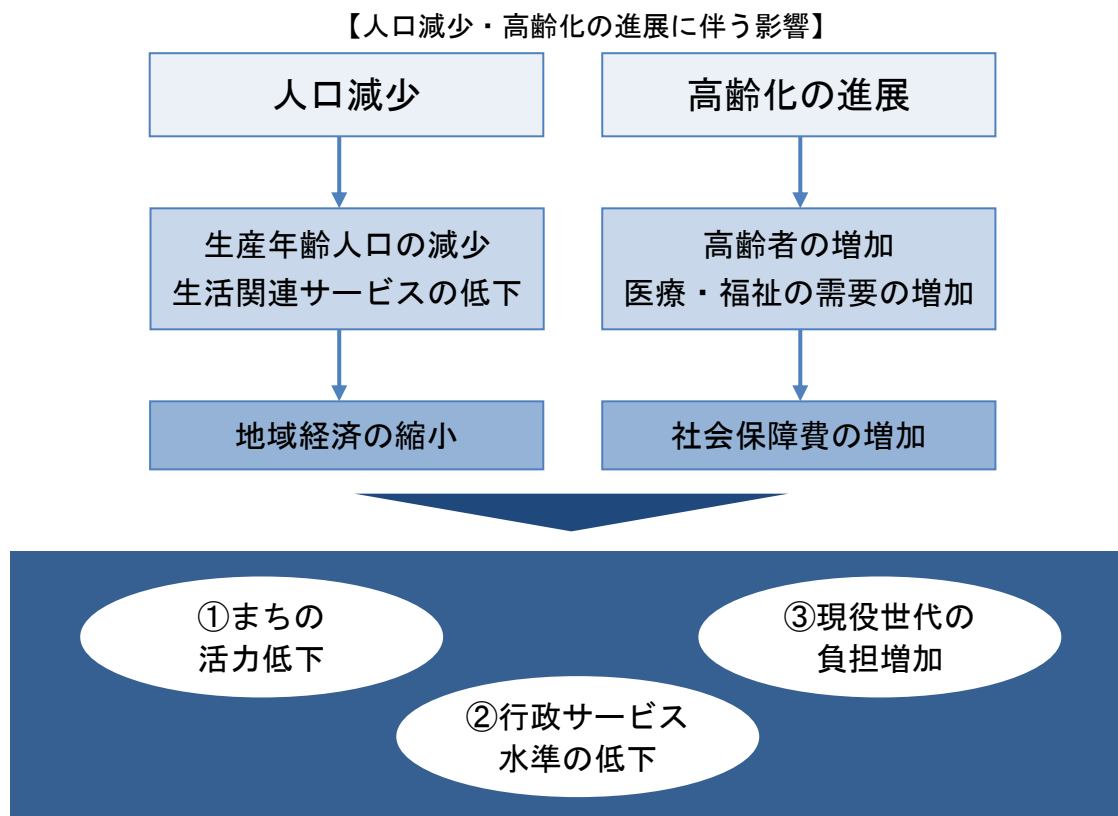
【2010 年及び 2060 年の各年齢区分別構成比】



※全国推計は、国立社会保障・人口問題研究所の推計値（出生中位・死亡中位）

#### 4. 人口減少や高齢化の進展が内灘町に与える影響

社人研における推計人口では、2010年に比べ、2060年には15歳未満の人口は約67%（2,645人）減少、15-64歳の人口は約52%（9,221人）減少、65歳以上の人口は約140%（2,130人）増加する見込みであり、今後、下記に示す影響が想定される。



##### ①まちの活力の低下

人口減少に伴い、飲食店や小売店舗などの日常生活に欠かせない生活関連サービスや商店の衰退が予想され、それに伴う地域経済の縮小、更なる人口の流出など、まちの活力の低下が懸念される。

##### ②行政サービス水準の低下

人口減少による税収の減少に伴い、町内の公共施設の維持や行政サービス水準の低下が懸念される。公共施設の統廃合や町民の移動を支えるコミュニティバス等の公共交通機関のサービスの低下等により、町民の日常生活における利便性の低下が予想される。

##### ③現役世代の負担増加

高齢化の進展に伴い、医療・福祉にかかる社会保障費の増大による負担の増加や、生産年齢人口の減少が進むことによる自治会や消防団をはじめとする地域の自主的な活動の担い手不足が予想され、地域の安全・安心の確保に向け、現役世代の負担の増加が懸念される。

### §3. 内灘町の人口の将来展望

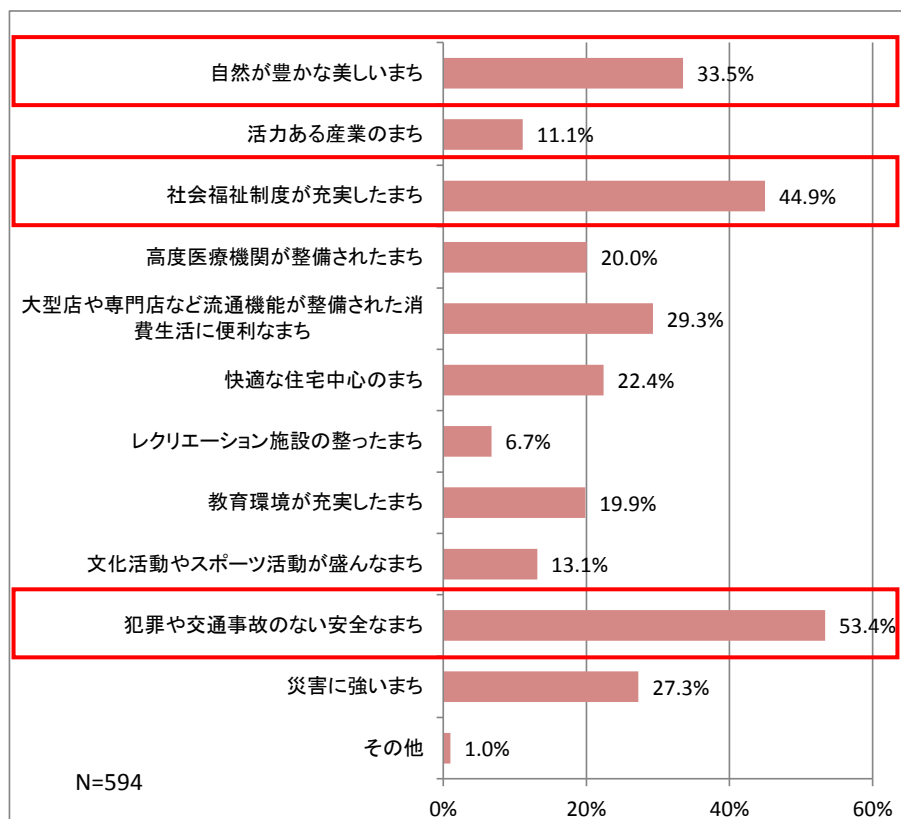
#### 1. 町民意向調査

##### (1) 内灘町が目指すべきまちの将来像

- 町内に居住する20歳以上の町民を対象としたアンケート結果において、内灘町が目指すべきまちの将来像は「犯罪や交通事故のない安全なまち」が最も多く53.4%を占め、次いで「社会福祉制度が充実したまち」が44.9%、「自然が豊かな美しいまち」が33.5%となっている。

⇒ 今後、町内からの転出抑制、町外からの転入促進を図る上でも「災害や事故等が少ない安全なまち」「社会福祉制度が充実したまち」「自然と共存した住みよいまち」の視点を重視した取組が求められる。

【内灘町が目指すべきまちの将来像】

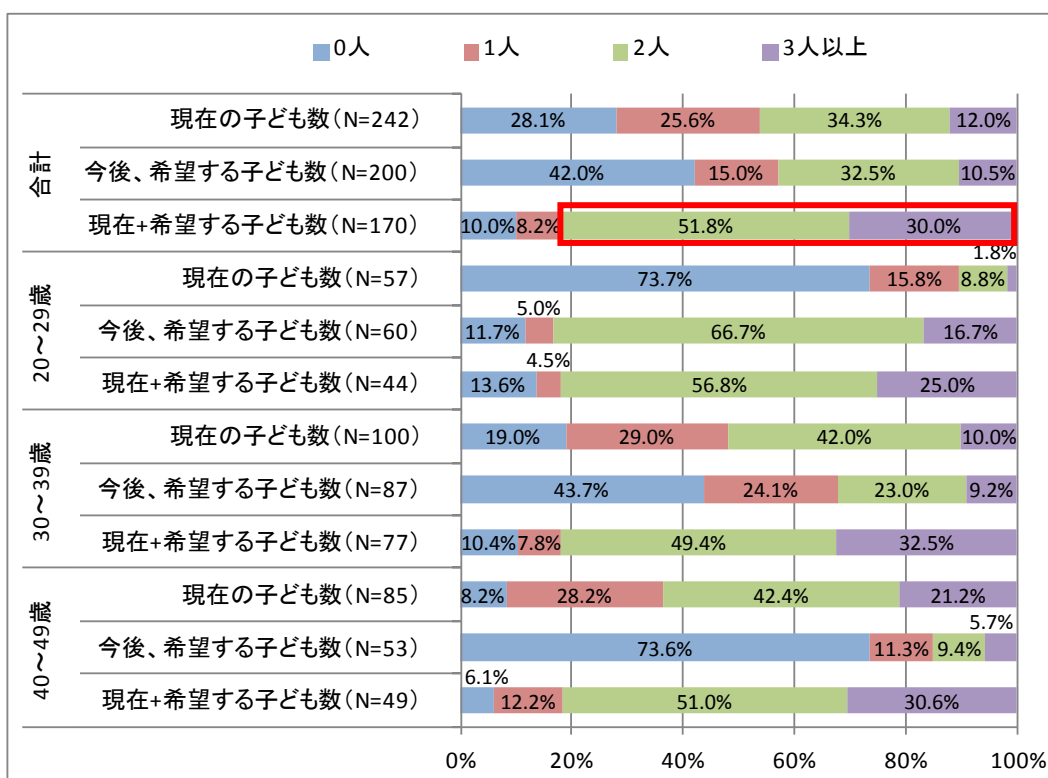


## (2) 町民が希望する子どもの数

- 町民アンケート（50歳未満の方を対象とした設問）における希望の子ども数についての設問では、一生涯に希望する子どもの数は「2人」が最も多く 51.8%、次いで「3人以上」が 30.0%となっており、一生涯に希望する子どもの数の平均値は、約 2.0 人となっている。

⇒ 現状の合計特殊出生率が 1.41 の中、町民が希望する子どもの平均数は「2.0 人」となっており、子育て支援施策等の児童福祉環境を充実させ、町民の希望をかなえる。

【現在の子ども数と希望する子どもの数】



## 2. 目指すべき人口減少対策の方向性（基本方針）

人口減少や少子高齢化の進展は、地域経済の縮小や町民の生活水準の低下等の影響が想定される。今後、本町の活力を維持し、持続的な発展に向け、下記に示す人口減少対策を講じる必要がある。

### 基本方針①

#### 子育て環境の充実による定住促進及び合計特殊出生率の向上を図ります

---

本町の社会移動は、男性「30～34 歳」、女性「25～29 歳」の転出が顕著な状況にある。若い世代の転出は、将来的な出生数に関係し、実際の転出者数以上に町内の人口動態に影響を及ぼすことが懸念される。

子育てや教育環境の充実、子育て世帯・多子世帯への支援を図るほか、地場産業や地域資源を活用した次世代産業等の振興による雇用の場の創出等により、若い世帯の移住・定住促進を図り、出生率の向上を目指す。

### 基本方針②

#### 町民がずっと元気に暮らせる健康寿命の延伸を目指します

---

高齢化の進展により、医療や介護を必要とする高齢者の増加が予想される。また、近年、若い世代においても、生活習慣病をはじめとした疾病にかかる方が増えている。

このような社会情勢の中、町民の健康づくり施策を充実させることで健康寿命の延伸を図り、町民がいつまでも自分らしく、互いに支え合い、生き生きとして暮らすことができるまちの実現を目指す。

### 基本方針③

#### 安全・安心な暮らしを確保する住みよいまちづくりを進めます

---

近年、全国的に大規模な災害や凶悪犯罪等により地域の平穏が阻害される事例が多発しており、町民アンケート結果からも目指すべきまちの将来像として「災害や事故等が少ない安全なまち」が挙げられている。

住民の町外への転出を抑制する上でも防災・防犯体制や医療・福祉体制の強化を図るほか、地域内外のコミュニティの推進等により、安全で安心な暮らしの確保を目指す。

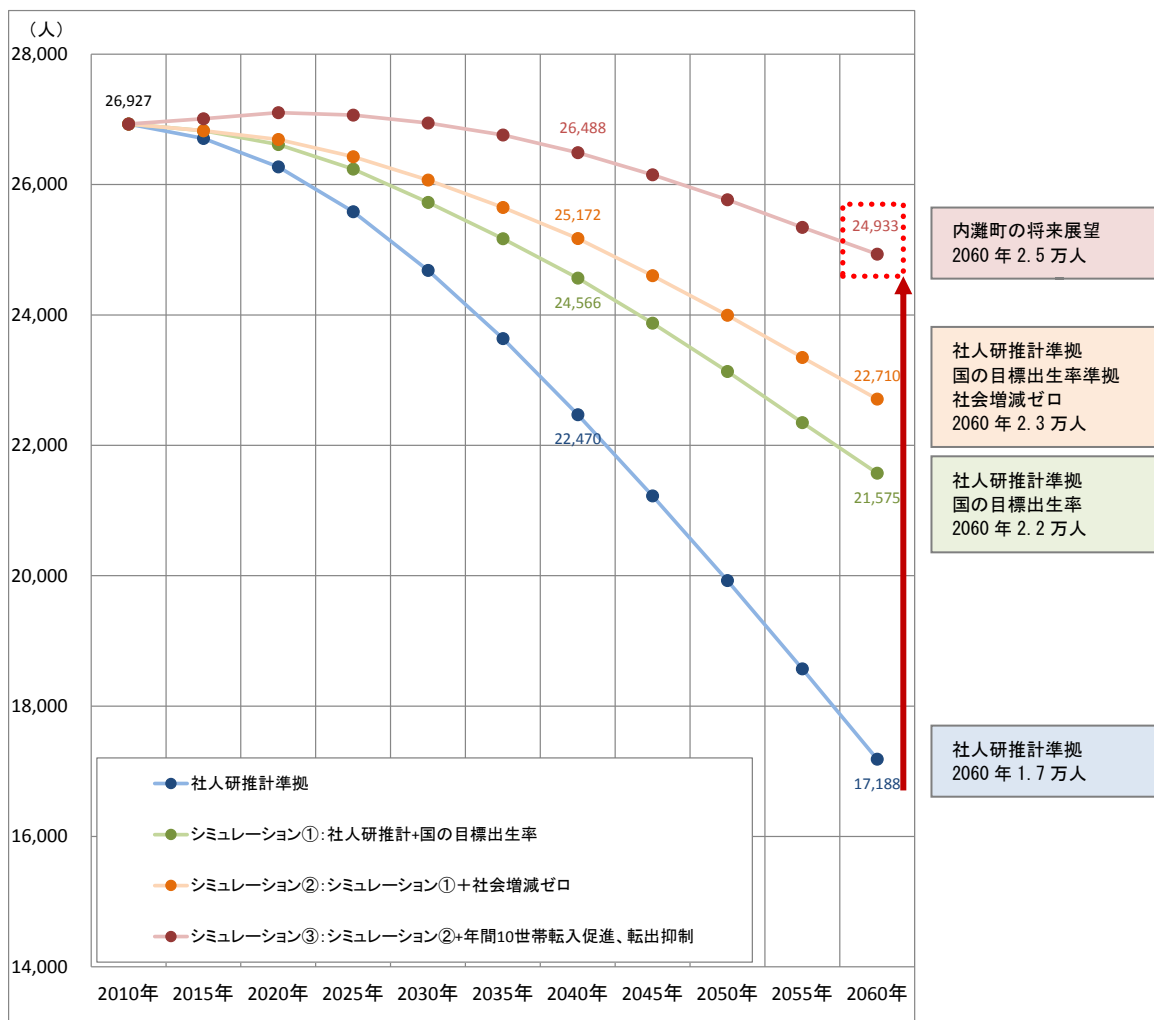
### 3. 将来目標人口の設定

内灘町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策展開により、  
2060年には人口約25,000人の確保を目指す

自然増減については、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン（平成26年12月）における合計特殊出生率に基づき、2030年に1.8、2040年に2.07を達成することを目指す。

社会増減については、2010年-2014年の社会動態の傾向（均衡状態）を踏まえつつ、若年層の就職や結婚等を機会とした転出抑制やUIJターンをはじめとする移住者の転入促進等を図り、2015年以降の毎年、若年層の3人世帯が10世帯増加することを目指す。

【内灘町の人口の長期見通し】



## 人口推計算出のための仮定

### 【シミュレーション①：国の目標に準拠した出生率を仮定した場合のシミュレーション】

社人研推計準拠において、合計特殊出生率が2030年に1.8、2040年に人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.07）まで上昇すると仮定

### 【シミュレーション②：シミュレーション①+社会移動が均衡したと仮定した場合のシミュレーション】

- (i) 合計特殊出生率をシミュレーション①（国の目標準拠）まで上昇
- (ii) 2015年以降、転入者数及び転出者数が同数となり、社会移動がゼロとなると仮定

### 【シミュレーション③：シミュレーション②+転出抑制・転入促進（10世帯/年）を仮定した場合のシミュレーション】

- (i) 合計特殊出生率をシミュレーション②（国の目標準拠）まで上昇
- (ii) 2010年以降、転入者数及び転出者数が同数となり、社会移動がゼロとなると仮定
- (iii) 2015年以降、若年層ファミリー世帯の転出抑制及び転入促進施策により社会動態をプラスに設定
- (iv) 若年層ファミリー世帯は、30歳代後半の夫婦と0-4歳の子ども（1人）の3人世帯を10世帯/年、30人/年が転入促進・転出抑制すると仮定（定住促進奨励金交付時の転入者の家族構成等を参考に設定）

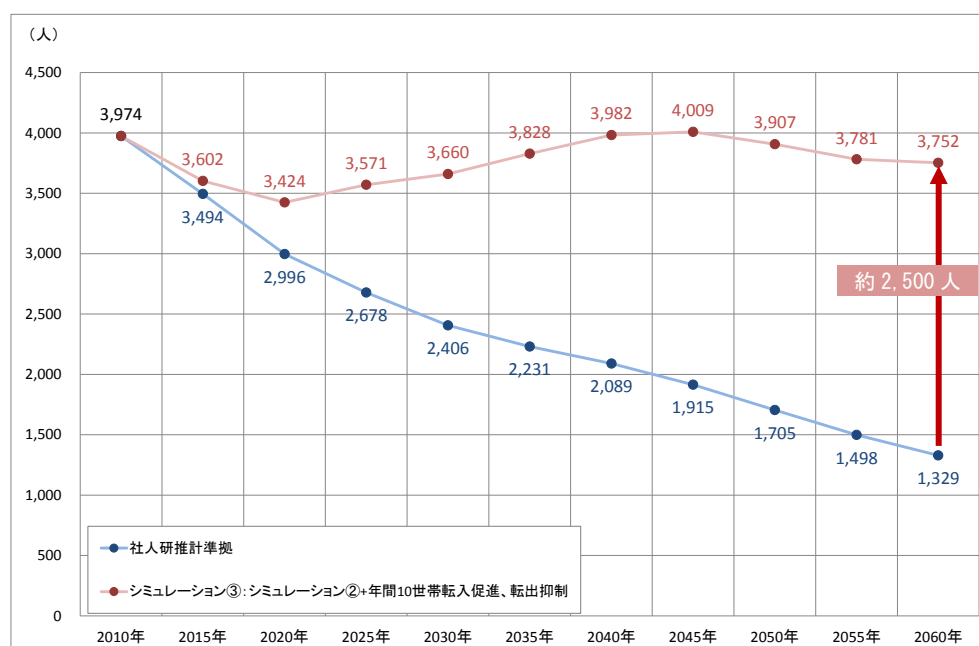
※2010-2014年における内灘町の社会増減は、均衡状態にある。（P8参照）

本シミュレーションは、2010年意向の社会増減の状況を踏まえ、転入促進・転出抑制施策の目標によるシミュレーションを実施。

## ①年少人口の比較

将来目標人口の推計仮定における年少人口の推移は、2020年まで減少傾向が続くが、2020年以降には増加に転じることが見込まれ、2060年における年少人口は社人研推計準拠と比べ、約2,500人の増加を目指す。

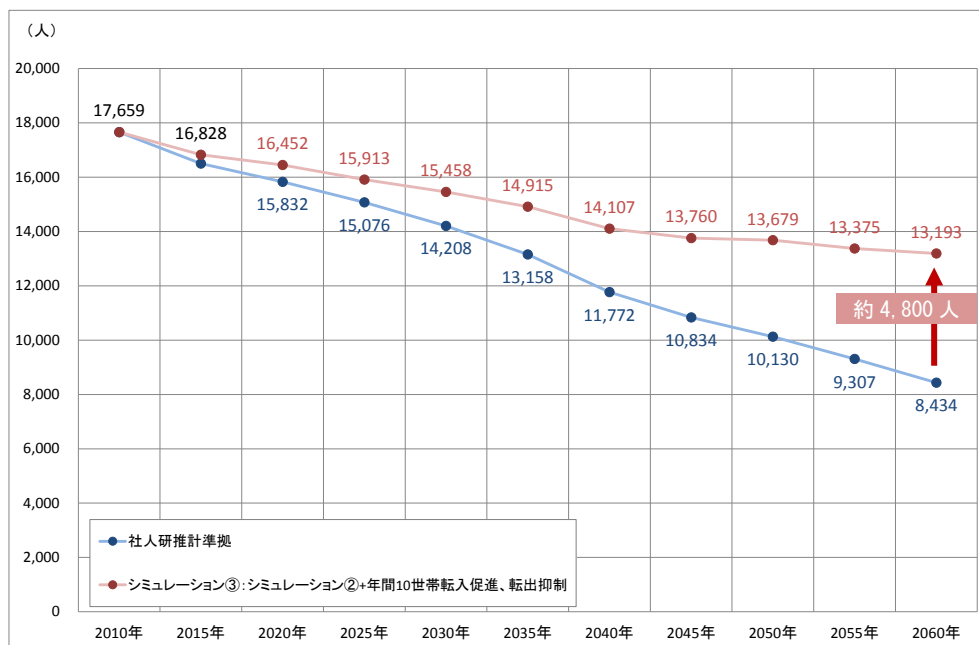
### 【年少人口の推移】



## ②生産年齢人口の比較

将来目標人口の推計仮定における生産年齢人口の推移は、2060年まで減少傾向が続くと予想され、2060年時点で約13,000人と社人研推計準拠と比べ、約4,800人の増加を目指す。

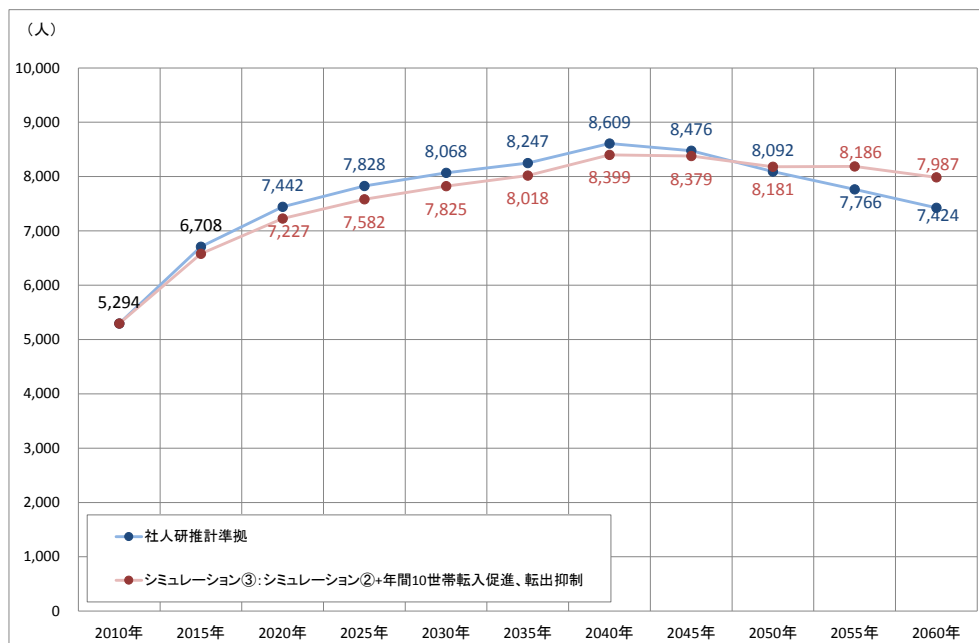
【生産年齢人口の推移】



## ③老年人口の比較

将来目標人口の推計仮定における老年人口の推移は、2040年まで増加傾向が続き、2040年以降には減少に転じ、2060年には約8,000人と社人研推計準拠と同水準を目指す。

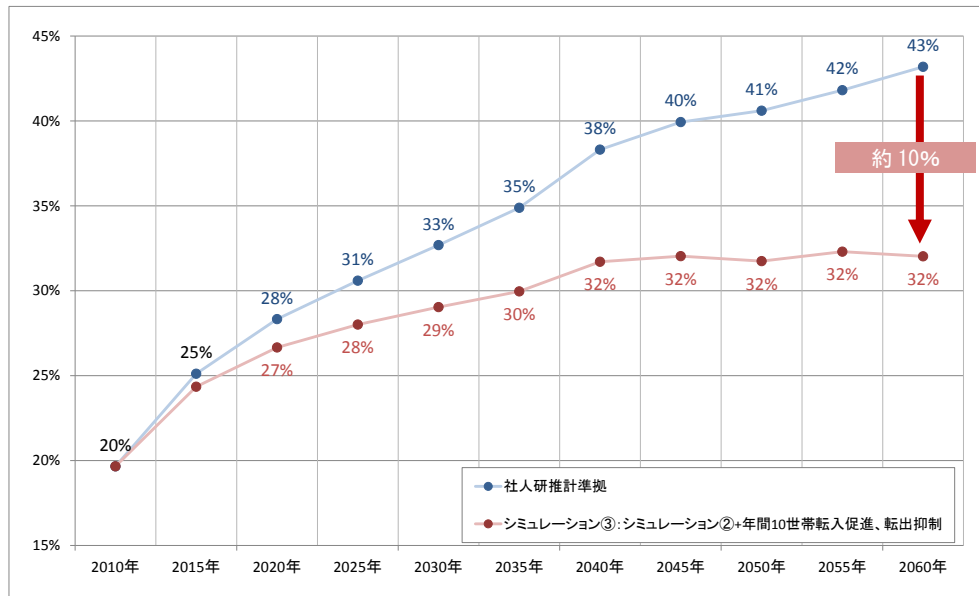
【老年人口の推移】



#### ④高齢化率の比較

将来目標人口の推計仮定における高齢化率は、2060年には32%と社人研推計より約10%の抑制を目指す。

【高齢化率の推移】



#### ⑤人口ピラミッドの比較

2060年社人研推計準拠における人口ピラミッドは、65歳以上の老年人口が多く、15歳未満の年少人口が少ない不安定な人口ピラミッドとなっているが、2060年将来展望における人口ピラミッドは、15歳未満の年少人口、15～64歳の生産年齢人口、65歳以上の老年人口のバランスを保った状態になっている。

【人口ピラミッド（2060年社人研推計準拠（白抜き）、2060年将来展望（色塗り））】

